

オープンソースソフトウェア GT.M Ver5.4 2010

澤田 潔¹ CAMTA-JP¹

はじめに

GT.M(Greystone Technology MUMPS)は、AGPL3 に準拠した OSS である。ANSI/ISO/JIS 国際標準 M 言語で、64bit Linux プラットフォーム対応、ACID トランザクションをフルサポート、Unicode 対応などの特徴を持つハイパフォーマンスな M テクノロジー・データベース・エンジンである。

GT.M の近況

GT.M プロダクトは「Rock Solid. Lightning Fast. Secure. No compromises.」なるキャッチコピーの元、2010 年 2 月にメジャーバージョンである Ver5.4 がリリースされた。(最新版 V5.4-001 2010/07/30)

一方、GT.M と SQL(JDBC)とのインターフェース・ソリューションである PIP は、2010 年 4 月に V0.2 がリリースされた。

本稿では、GT.M Ver5.4 と、実験的で挑戦的な Ver0.1 から改良された PIP Ver0.2 について概要を解説する。

GT.M Ver5.4 リリース概要

トリガ(Trigger)は、Ver5.4 で追加された最大の機能である。トリガは特定のグローバル・ノードにマッチする更新が発生した場合、あらかじめ定義されたアクションを自動実行しその応答を返す。一般的な RDB では、トリガ関数(PL/sql)、手続き型呼び出しなどと呼ばれている機能と同等である。今後 PIP にて SQL ライクな問い合わせに対

応するための重要な機能追加であるとともに、定型的な処理においてコード記述量を少なくすることが期待できる。

Ver5.4 では、他にソケット通信モジュールの改良や 64bit 版バイナリー配布などのアナウンスされている。

PIP Ver 0.2 の概要

PIP は従来、F.I.S 社の FIS ProfileTM 銀行向けリアルタイム・コア処理システムの商用ベースのインフラであった。Ver0.2 から FIS ProfileTM はプロファイルのコードベースから分離され、より GPL ライクなソフトウェアとして生まれ変わった。

日本における GT.M コミュニティ活動

筆者は GT.M 研究会(Google Group)にて GT.M およびその周辺技術についてコミュニティ活動を行っている。現在、GT.M 研究会にて GT.M プログラマーズガイドと GT.M 管理および操作ガイドの翻訳に注力している。翻訳作業の協力者を募集している。

参考文献(URL)

1. GT.M Database Engine with Extreme Scalability and Robustness.<http://www.fisglobal.com/Products/Technology/Platforms/GTM/index.htm>
2. GT.M 研究会 <http://groups.google.com/group/GTMstudy/>